

縮小社会への道 オンライン茶話会 第3回

シリーズ：科学技術の応用は便利だけ？ 第2回

資本主義経済は、石油を基幹エネルギーとして成長してきました。世界のエネルギー資源確認埋蔵量は、BP 統計 2019 年によると、石油は 50 年、天然ガスは 51 年、石炭は 132 年です。今、年率 2% の経済成長を年率 1% の経済縮小に切り替えることで、100 年後の化石燃料の消費は 1/20 になります。「縮小社会への道」の基本は、貴重な化石燃料の消費を、負担を感じない年率 1% で減少していくことにあります。一方、資本主義経済において、科学技術の応用は実に便利なものとなっています。科学技術の過剰な実用化によって、原発事故による放射能公害やプラスチックの廃棄物公害など、地球上に生きる全ての生物にその存亡の危機が迫っています。今回は、デジタルテクノロジーの問題について、皆さんと共に考えてみましょう。

テレビ、パソコン、スマホなど、私たちの周りには、生活を便利で快適で楽しくするデジタル機器があふれています。銀行でも、病院でも、役所でも、スーパーマーケットでも、デジタル機器があり、大変便利な社会になっています。現在、世界でも日本でもコンピューターを中心として社会と経済を動かすデジタル革命が進められようとしています。しかし、ちょっと、立ち止まって考えてみましょう。コンピューター、スマホ、監視カメラ、AI、ロボット、自動運転車などがあふれた世界は、私たちにとって、バラ色の社会と言えるのでしょうか。デジタルテクノロジーは、便利・快適などの私たちの生活へのプラスは大変大きいものがあります。その反動としての弊害も既に問題になっており、社会に広がるにつれて更に大きくなると考えられます。これらの問題を 3 回に分け話題提供して頂き、皆さんで共に考えてみましょう。

「デジタルテクノロジーの問題について」

コンピューターの心臓部品である半導体—資源とエネルギー消費

日時：9月16日（水）19:30～21:00

zoom: <https://us02web.zoom.us/j/84406963501>

ID: 844 0696 3501

デジタルテクノロジーの中核であるコンピューターの心臓部品である半導体の製造が消費する資源とエネルギー、コンピューターの作動による消費電力は意外に大きく、4 mm角ほどの半導体集積回路の製造だけでも多くの資源とエネルギーを必要とします。いま期待されている人工知能（AI）も大きな電力を消費します。



【話題提供】尾崎雄三さん：縮小社会研究会理事 大学では高分子化学を専攻。1970 年から 25 年弱、ゴム・プラスチック製品を製造する会社で製品開発と開発した製品の製造現場で生産技術に従事

今後の「デジタルテクノロジーの問題について」の予定とテーマ（今後の日時は追って連絡します）

- ・ 情報通信技術（ICT）の光と影 —情報通信技術（ICT）の副作用—
- ・ あふれる情報と人工知能が人類に与える影響—社会・経済・人間自体への影響

非会員の方の参加も歓迎です。事前に氏名・所属などを事務局まで連絡願います。

連絡先：高橋精巧 E-mail：bugad205@hi-net.zaq.ne.jp TEL：090-5886-8364

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail：jimukyoku@shukusho.org HP：<http://shukusho.org/>